

平成30年 4月入学

佐賀大学大学院
第2次学生募集要項

農学研究科（修士課程）

一般入試

社会人特別入試

外国人留学生特別入試

佐賀大学

目次

| | | |
|------|---------------------------|----|
| I | 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー） | 1 |
| II | 一般入試 | 4 |
| III | 社会人特別入試 | 11 |
| IV | 外国人留学生特別入試 | 17 |
| V | 入学手続等 | |
| i | 入学手続 | 24 |
| ii | 納入金 | 24 |
| iii | 奨学金 | 25 |
| iv | 教育職員免許状 | 25 |
| v | 出願上の留意事項 | 25 |
| VI | 教育研究分野等 | 29 |
| VII | 鹿児島大学大学院連合農学研究科（博士課程）について | 35 |
| VIII | 佐賀大学配置図及び佐賀大学への交通案内 | 37 |

個人情報の取扱いについて

独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律の施行に伴い入学志願者から提出された出願書類等に記載されている個人情報については、入学者選抜に係る業務（統計処理などの付随する業務を含む。）以外に、教育目的等（入学金・授業料免除、（入学金徴収猶予）及び奨学金等を含む。）に利用します。

※ 本学が取得した個人情報は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」第9条に規定されている場合を除き、志願者本人の同意を得ることなく他の目的で利用又は第三者に提供する事はありません。

佐賀大学大学院への出願方法について

佐賀大学大学院(医学系研究科を除く)では、PDFフォームを利用した願書の受付を行っており、募集要項については、原則としてホームページでご確認いただいております。

志願者の方は、出願に必要な書類を電子ファイルとして管理できますので、早く簡単に書類作成が可能です。

●出願までの手順(概略)

○本学ホームページからPDFフォームなど必要な書類をダウンロードしてパソコンに保存してください。必要な書類については、本要項記載の「出願書類等」のページでご確認ください。

○志願票・受験票などに必要事項を入力後、印刷してください。

○検定料は、納付書を印刷し銀行で振込手続きを行ってください。

○印刷した出願用封筒ラベルを市販の角形2号(240×332ミリ)の封筒に貼付し、書類一式を入れて提出してください。

なお封筒については、学務部入試課においても配布を行っています。

○出願書類は手書きでもかまいません。

*PDFフォームとは、PDFの閲覧に利用する無償のAdobe Readerで直接データを入力できるようにしたPDFです。

*Adobe Readerをお持ちでない方は、最新のプラグインを入手してください。

*A4サイズの印刷が可能なプリンタの無い方、PDFが表示されない方は本学学務部入試課へ資料請求をしてください。

I 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

佐賀大学の求める入学者

佐賀大学は、学生と緊密にコミュニケーションできる総合大学として、人格形成、専門知識・技術の修得、そして基礎から実用開発にいたるまで、能力を最大限に伸ばすことを目標に人材育成と研究活動を展開します。

佐賀大学の教育目標は、高度情報化社会で活躍できる情報基礎と専門知識を修得させること、地域文化を理解し地域に根ざした活動を行うための素養を持たせること、国際化時代にふさわしい異文化理解とコミュニケーション能力を修得させることです。

佐賀大学は、チャレンジ精神を持ち、問題を自発的に探究・解明し、社会に貢献できることを人生目標とする学生を求めています。

農学研究科（修士課程）

【1】求める学生像

農学研究科は、地域社会及び国際社会の発展に必要とされる農学上の諸課題を解決する能力、高い倫理意識及び国際的視野を有し、多方面において先端的・応用的・実用的な能力を発揮し、活躍できる創造性豊かな高度専門職業人を養成することを目的とします。求める学生像は以下の通りです。

■ 生物資源科学専攻

農学を基盤とした人類の生存に必要な食料、環境、資源・エネルギー、経済・社会・文化、生命などに関わる5つの教育研究コースを擁しています。本研究科は、科学技術の高度化・国際化を踏まえつつ、各コースにおける学習と研究を通じて当該専門分野における専門職業人又は研究者としての知識・技能を高め、リーダーとして社会に貢献する人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 専門分野における基礎知識を持ち、かつ明確な問題意識を持つ人
- ② 研究課題に取り組む旺盛な意欲と研究を貫徹する実行力のある人
- ③ 語学力ならびに高いコミュニケーション能力を有する人
- ④ 本研究科での研究を通じて社会に貢献しようという意識の高い人
- ⑤ 農学系大学院博士後期課程に進学して、農学関連の研究者や専門技術者を目指す人

<コースの求める学生像>

1 応用生物科学コース

有用な動植物の育種開発ならびに生物制御機構の解明と応用を中心としたバイオサイエンスに関する知識の修得と研究を志す人

2 生物環境保全学コース

環境負荷の少ない生物生産環境の創出と保全ならびに地球レベルから地域までの幅広い保全と創造に関する知識の修得と研究を志す人

3 資源循環生産学コース

資源循環型の生物生産システムの構築ならびに環境に配慮した農産・加工とバイオエネルギー開発に関する知識の修得と研究を志す人

4 地域社会開発学コース

農林水産に関する政策・流通経済・経営管理システム、農村の社会構造と集落維持システムならびに産業・地域開発に伴う環境問題と健康問題に関する知識の修得と研究を志す人

5 生命機能科学コース

生命現象と遺伝機能の化学的解明ならびに生物の機能性を利活用した食品の製造・貯蔵などに関する知識の修得と研究を志す人

【2】入学者選抜の基本方針

農学研究科の教育・研究理念に基づき、教育目的・教育目標・教育方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とした多様な入試方法と多面的な評価方法により入学者を受け入れます。

一般入試

入学の機会を広く保障するために、大学院受験資格を有する全ての者を対象とした一般入試を行います。本入試では、大学院で学ぶために必要な基礎学力、専門分野の専門的知識及び研究遂行能力等を有しているかを、外国語と専門科目に関する筆記試験及び成績証明書によって評価します。また、各コースに対する明確な志望動機や入学後の研究意欲等を、面接試験と志望理由書によって評価します。

社会人特別入試

大学卒業後に社会における専門分野の職業経験を持つ者を対象とした社会人特別入試を行います。本入試では、大学院で学ぶために必要な基礎学力、専門分野の専門的知識及び研究遂行能力等を有しているかを、研究計画書、研究業績書を踏まえた口述試験及び成績証明書によって評価します。また、各コースに対する明確な志望動機や入学後の研究意欲等を、面接試験と志望理由書によって評価します。

外国人留学生特別入試

外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、外国人留学生入試を行います。本入試では、大学院で学ぶために必要な基礎学力、専門分野の専門的知識及び研究遂行能力等を有しているかを、口述試験と成績証明書によって評価します。また、各コースに対する明確な志望動機や入学後の研究意欲等を、面接試験と志望理由書によって評価します。

農学研究科（修士課程）で学ぶために必要な能力や適性等とその評価方法

| 観点 | 入学後に必要な能力や適性等 | 評価方法 | 入試方法 | 対象専攻 |
|-------------|------------------------------|---|--|-------------------------------|
| 知識・理解・思考・判断 | 大学院で学ぶために必要な汎用的な基礎学力及び専門的な知識 | 専門科目と外国語の筆記試験によって、基礎学力及び専門分野の専門的知識を評価します。 | 一般入試 | 生物資源科学専攻 |
| | | 成績証明書によって、最終出身学校での学業成績、学習態度を評価します。 | 一般入試 社会人特別入試 外国人留学生特別入試 | 生物資源科学専攻 |
| | 専門分野における学習能力や研究遂行能力 | 口述試験によって、専門分野での学習及び研究を遂行するための能力や資質を評価します。 | 社会人特別入試 外国人留学生特別入試 | 生物資源科学専攻 |
| | | 研究計画書によって、これまでの研究概要と入学後の研究計画を評価します。 | 社会人特別入試 | 生物資源科学専攻 |
| | | 研究業績書によって、これまでの研究実績及び研究内容を評価します。 | 社会人特別入試 | 生物資源科学専攻 |
| | 興味・関心・態度・意欲 | 志望専攻で学ぶための明確な志望動機や入学後の意欲 | 面接試験と志望理由書によって、志望コースで学ぶ動機、意欲、積極性等を評価します。 | 一般入試 社会人特別入試 外国人留学生特別入試 |

Ⅱ 一般入試

1 募集人員

| 専攻 | コース | 講座 | 教育研究分野 | 募集人員 |
|--------|---------|--------------------------------------|--|-----------|
| | | | | 平成30年4月入学 |
| 生物資源科学 | 応用生物科学 | 生物資源開発学 | 熱帯作物改良学, 動物資源開発学, 植物代謝解析学, 蔬菜花卉園芸学, 果樹園芸学, 植物遺伝育種学 | 8人 |
| | | 生物資源制御学 | 植物病制御学, 植物ウイルス病制御学, 線虫学, 昆虫学, システム生態学, 動物行動生態学 | |
| | 生物環境保全学 | 生物環境保全学 | 地圏環境学, 水環境工学, 浅海干潟環境学, 環境地盤学, 海浜環境情報学, 生物環境学 | |
| | 資源循環生産学 | 資源循環生産学 | 農業生産機械学, 生産システム情報学, 施設農業生産学, 作物生態生理学, 家畜医療応用学, アグロフィールド保全学, フィールド資源開発学 | |
| | 地域社会開発学 | 地域社会開発学 | 地域ビジネス開発学, 地域資源学, 人類生態学 | |
| | 生命機能科学 | 生命化学 | 生化学, 機能高分子化学, 応用微生物学, ☆分子細胞生物学 | |
| 食糧科学 | | 生物資源利用学, 食品化学, 食糧安全学, 食品栄養化学, 天然資源化学 | | |

上記5コースの他、副コースとして入学後に履修することができる「農業技術経営管理学コース」があります。詳細は30ページを参照ください。

☆は総合分析実験センターにおいて研究指導を行います。

2 出願資格

次のいずれかに該当する者とします。

- (1) 大学を卒業した者及び平成30年3月までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び平成30年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び平成30年3月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び平成30年3月までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成30年3月までに修了見込みの者

- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成30年3月までに修了見込みの者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (9) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学院に入学した者であって、当該者をその後に入学者とする大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者
[下記の(注2)を参照してください。]
- (10) 学校教育法第83条に定める大学に3年以上在学した者であって、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認められた者[下記の(注2)を参照してください。]
- (11) 外国において学校教育における15年の課程を修了し、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了し、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認められた者[下記の(注2)を参照してください。]
- (12) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認められた者[下記の(注2)を参照してください。]
- (13) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成30年3月31日において満22歳に達したもの（学校教育法施行規則第155条第1項第8号）[下記の(注1)及び(注2)を参照してください。]
- (注1) 出願資格(13)における個別の入学資格審査とは、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業者やその他の教育施設の修了者等で大学卒業資格を有していない者について、大学を卒業した者と同等以上の学力があるか審査を行うものです。
- (注2) 出願資格(9)、(10)、(11)、(12)及び(13)による出願希望者は、下記事項に留意の上、出願してください。(ただし、③については出願資格(10)、(11)及び(12)による出願希望者のみ)
- ① 出願資格に関する事前審査を行いますので、出願を希望する者は、平成29年12月4日(月)までに学務部入試課へ「出願資格認定申請書(様式院9-1)」に「入学試験出願資格認定審査調書(様式院9-2)」及び出願資格認定申請書に記載している提出書類を添付して申し出てください。
なお、出願希望者の経歴によっては、その他の書類等を求めることがあります。
- ② 出願資格を有すると認定された者に対し、入学願書の受け付けを行います。
- ③ 出願資格(10)、(11)及び(12)による者で、入学試験に合格した者に対しては、平成30年3月までに提出された成績証明書等により、入学資格要件(事前に本人に通知します。)を審査し

ます。

審査の結果、入学資格要件を満たしていないと認定された者は、入学できません。

3 出願期間

(1) 出願期間

平成30年1月15日(月)～1月18日(木)

- ① 郵送の場合は、「簡易書留」とし、平成30年1月18日(木)17時必着とします。
- ② 持参の場合は土曜日、日曜日及び祝日を除き毎日9時から17時までとします。
- ③ 入試課ホームページの「出願用封筒」に必要事項を記入し、角形2号の封筒に貼付し提出してください。

封筒については、学務部入試課においても配布を行っています。

(2) 提出先：〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部入試課

(3) 受験票等の送付

受験票は、試験日の1週間前までに届くように、郵送します。

期日までに受験票が届かない場合は、土曜日、日曜日及び祝日を除き毎日9時から17時までの間に学務部入試課まで、お問い合わせください。

4 出願書類等（一般入試）

下記の出願書類を入試課ホームページ(http://www.sao.saga-u.ac.jp/daigakuin/daigakuin_yoko.html)より、ダウンロードして提出してください。

| 区 分 | 備 考 |
|--|---|
| 入 学 検 定 料 30,000円 | 本学所定の検定料振込依頼書を使用し、銀行窓口において検定料を納入してください。 ^(注1) なお、下記（注1）の場合以外は、いかなる理由があっても既納の検定料は一切返還しません。 |
| 検 定 料 振 込 証 明 台 紙 | 上記検定料を納入後、銀行窓口において受領する「C票 検定料振込証明書」を台紙に貼り付けてください。 |
| 入学志願票（様式院1-2） 履 歴 書 写 真 票（様式院2-2） 受 験 票（様式院3-2） | ※印以外の所定の欄はすべて記入してください。 写真は上半身、脱帽、正面向きで、出願前3か月以内に撮影したものを所定の欄に貼り付けてください。 |
| 成 績 証 明 書 | 最終出身学校の成績証明書 |
| 卒業（修了）証明書又は卒業（修了）見込証明書等 ^(注2) | 出身大学等作成のもの ^(注3) |
| 志 望 理 由 書 （ 様 式 院 6 ） | 本学所定の用紙を用いてください。（卒論の概要を含めて1000字程度） |
| 出 願 承 認 書 （ 様 式 院 5 ） | 本学所定の用紙を用いてください。（ただし、在職中の者に限ります。） |
| 返 信 用 封 筒 | 受験票を送付しますので、長形3号の封筒の表面に受取人の住所、氏名、郵便番号を明記し、「受験票在中」と朱書きの上、82円分切手を貼り付けてください。 |
| 住 所 届 （ 様 式 院 1 0 ） | 本学所定の住所届に必要事項を記入してください。 |
| T O E I C 公 開 テ ス ト ス コ ア 証 明 書 | 平成29年1月以降に受験した TOEIC 公開テストのスコア証明書の原本を提出してください。（TOEIC-IPテストは、受け付けません。） ^(注4) |
| 「住民票」又は「在留カード」 または「外国人登録証明書」 の写し | ○日本国籍を有しない者で、現に日本国内に在住しているときは、市区町村長の発行する「住民票の写し」（在留資格が記載されたもの）を提出してください。（在留カードの表裏両面をコピーしたものでも可） ○出願時に日本国内に在住していない者は、パスポートの写し（写真及び在留資格・期間の分かるページ）を提出してください。 |

（注1）検定料の返還請求

次の場合は、検定料の返還請求ができますので、必ず手続きをしてください。

- ① 検定料を振り込んだが、本学に出願書類を提出しなかった場合
- ② 検定料を振り込み、本学に出願書類を提出したが、受理されなかった場合
- ③ 検定料を誤って二重に振り込んだ場合

なお、返還請求の方法等については、学務部入試課（0952-28-8178）までお問合せください。

（注2）合格者について、卒業見込みの者（本学出身者を除きます。）は「卒業証明書」を、出願資格（2）にかかる学位取得見込み者は、「学位記」の写し又は「学位授与証明書」を卒業後速やかに提出してください。

（注3）出願資格（2）にかかる者のうち、短期大学の専攻科又は高等専門学校の専攻科等を卒業（修了）見込みの者については、学士の学位の授与申請予定証明書を添付してください。

(注4) 出願時に TOEIC 公開テストのスコア証明書の原本を提出出来ない者は、試験日の受付時に提出してください。(試験日の受付時以外は受け付けません。)

なお、出願時に TOEIC 公開テストのスコア証明書の原本を提出しておらず、かつ、試験日の受付時に提出できない場合は、失格となりますのでご注意ください。

熊本地震で被災された佐賀大学志願者への入学検定料の免除について

1. 免除申請の要件

入学検定料の免除を申請できるのは、次に該当する者です。

- ① 主たる家計支持者が所有する自宅家屋が全壊、大規模半壊、半壊、流失した場合
- ② 主たる家計支持者が死亡又は行方不明の場合

2. 申請方法

事前に学務部入試課に連絡し、該当すると判断された者は、所定の申請書類を出願書類とともに提出してください。

3. 申請書類

(ア)「入学検定料免除申請書」

本学ホームページ「入試案内、大学院、募集要項」からダウンロードできます。

なお、ご請求頂ければ、郵送により送付します。

(イ)「り災証明書(写し可)」(上記1.①に該当する者)

(ウ)「死亡又は行方不明を証明する書類」(上記1.②に該当する者)

5 入試方法

入学者の選抜は、筆記試験、面接及び提出書類を総合して判定します。

① 筆記試験

ア 専門科目・・・○応用生物科学コース

各自の志願する教育研究分野(次表参照)の問題

○生物環境保全学コース

各自の志願する教育研究分野(次表参照)の問題

○資源循環生産学コース

各自の志願する教育研究分野(次表参照)の問題

○地域社会開発学コース

各自の志願する教育研究分野(次表参照)の問題

○生命機能科学コース

各自の志願する教育研究分野(次表参照)の問題及び基礎的 화학の問題

| 専攻 | コース | 講座 | 教育研究分野 |
|--------|---------|--------------------------------------|--|
| 生物資源科学 | 応用生物科学 | 生物資源開発学 | 熱帯作物改良学, 動物資源開発学, 植物代謝解析学, 蔬菜花卉園芸学, 果樹園芸学, 植物遺伝育種学 |
| | | 生物資源制御学 | 植物病制御学, 植物ウイルス病制御学, 線虫学, 昆虫学, システム生態学, 動物行動生態学 |
| | 生物環境保全学 | 生物環境保全学 | 地圏環境学, 水環境工学, 浅海干潟環境学, 環境地盤学, 海浜環境情報学, 生物環境学 |
| | 資源循環生産学 | 資源循環生産学 | 農業生産機械学, 生産システム情報学, 施設農業生産学, 作物生態生理学, 家畜医療応用学, アグロフィールド保全学, フィールド資源開発学 |
| | 地域社会開発学 | 地域社会開発学 | 地域ビジネス開発学, 地域資源学, 人類生態学 |
| | 生命機能科学 | 生命化学 | 生化学, 機能高分子化学, 応用微生物学, 分子細胞生物学 |
| 食糧科学 | | 生物資源利用学, 食品化学, 食糧安全学, 食品栄養化学, 天然資源化学 | |

②面接 コース別に行います。

6 試験日時等

(1) 集合時間・集合場所(受験票を必ず持参してください。)

平成30年2月26日(月)

(集合時間・集合場所は、受験票送付の際に併せて通知します。)

(2) 学力試験等日程

●平成30年2月26日(月)

| 専攻 | 専門試験 | 面接 |
|--------|-------------|--------|
| 生物資源科学 | 10:00~12:00 | 13:00~ |

7 合格者発表

平成30年3月8日(木)

本学ホームページに10時頃から合格者の受験番号を発表するほか、合格者には本学所定の合格通知書をもって通知します。

なお、電話による可否に関する問い合わせには一切応じかねますのでご了承ください。

Ⅲ 社会人特別入試

1 趣旨

科学技術の進歩，社会の複雑化のなかで社会人の学修希望が高まり，再教育に対するニーズが高まっています。

本学大学院においては，大学卒業後，社会経験を経た人を受け入れて，大学学部より高度の研究活動を行い，開かれた大学院として社会に役立つ研究と技術開発の推進を図り，あわせて，生涯教育に寄与しようとするものです。

この選抜により入学した者に対しては，大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例による教育を実施しています。＜16 ページ参照＞

2 募集人員

| 専攻 | コース | 講座 | 教育研究分野 | 募集人員 |
|--------|---------|----------------------------------|--|---------------|
| | | | | 平成 30 年 4 月入学 |
| 生物資源科学 | 応用生物科学 | 生物資源開発学 | 熱帯作物改良学，動物資源開発学，植物代謝解析学，蔬菜花卉園芸学，果樹園芸学，植物遺伝育種学 | 若干人 |
| | | 生物資源制御学 | 植物病制御学，植物ウイルス病制御学，線虫学，昆虫学，システム生態学，動物行動生態学 | |
| | 生物環境保全学 | 生物環境保全学 | 地圏環境学，水環境工学，浅海干潟環境学，環境地盤学，海浜環境情報学，生物環境学 | |
| | 資源循環生産学 | 資源循環生産学 | 農業生産機械学，生産システム情報学，施設農業生産学，作物生態生理学，家畜医療応用学，アグロフィールド保全学，フィールド資源開発学 | |
| | 地域社会開発学 | 地域社会開発学 | 地域ビジネス開発学，地域資源学，人類生態学 | |
| | 生命機能科学 | 生命化学 | 生化学，機能高分子化学，応用微生物学，☆分子細胞生物学 | |
| 食糧科学 | | 生物資源利用学，食品化学，食糧安全学，食品栄養化学，天然資源化学 | | |

上記5コースの他，副コースとして入学後に履修することができる「農業技術経営管理学コース」があります。詳細は30ページを参照ください。

☆は総合分析実験センターにおいて研究指導を行います。

3 出願資格

次のいずれかに該当する者で、2年以上（入学する月（4月）の前までの間）官公庁、企業又は教育機関等の現業に従事している者又は従事したものとします。

なお、合格者のうち「2年以上」という要件を入学する月（4月）の前で満たした者については、入学時にその旨の証明書を提出してください。その時点でこの要件を満たしていないことが判明した場合は入学を取り消します。

- (1) 大学を卒業した者
 - (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
 - (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
 - (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
 - (5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
 - (6) 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者
 - (7) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
 - (8) 文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)
 - (9) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学院に入学した者であって、当該者をその後に入学者とする大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者[下記の(注2)を参照してください。]
 - (10) 学校教育法第83条に定める大学に3年以上在学した者であって、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認めた者[下記の(注2)を参照してください。]
 - (11) 外国において学校教育における15年の課程を修了し、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了し、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認めた者[下記の(注2)を参照してください。]
 - (12) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認めた者[下記の(注2)を参照してください。]
 - (13) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成30年3月31日において満22歳に達したもの(学校教育法施行規則第155条第1項第8号)[下記の(注1)及び(注2)を参照してください。]
- (注1) 出願資格(13)における個別の入学資格審査とは、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業者やその他の教育施設の修了者等で大学卒業資格を有していない者について、大学を卒業した者と同等以上の学力があるか審査を行うものです。
- (注2) 出願資格(9)、(10)、(11)、(12)及び(13)による出願希望者は、下記事項に留意の上、出願してください。

- ① 出願資格に関する事前審査を行いますので、出願を希望する者は、平成29年12月4日（月）までに学務部入試課へ「出願資格認定申請書(様式院9-1)」に「入学試験出願資格認定審査調書(様式院9-2)」及び出願資格認定申請書に記載している提出書類を添付して申し出てください。
なお、出願希望者の経歴によっては、その他の書類等を求めることがあります。
- ② 出願資格を有すると認定された者に対し、入学願書の受け付けを行います。

4 出願期間

(1) 出願期間

平成30年1月15日（月）～1月18日（木）

- ① 郵送の場合は、「簡易書留」とし、平成30年1月18日（木）17時必着とします。
- ② 持参の場合は土曜日、日曜日及び祝日を除き毎日9時から17時までとします。
- ③ 入試課ホームページの「出願用封筒」に必要事項を記入し、角形2号の封筒に貼付し提出してください。

封筒については、学務部入試課においても配布を行っています。

(2) 提出先：〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部入試課

(3) 受験票等の送付

受験票は、試験日の1週間前までに届くように、郵送します。

期日までに受験票が届かない場合は、土曜日、日曜日及び祝日を除き毎日9時から17時までの間に学務部入試課まで、お問い合わせください。

5 出願書類等（社会人特別入試）

下記の出願書類を入試課ホームページ(http://www.sao.saga-u.ac.jp/daigakuin/daigakuin_yoko.html)より、ダウンロードして提出してください。

| 区 分 | 備 考 |
|--|---|
| 入 学 検 定 料 30,000円 | 本学所定の検定料振込依頼書を使用し、銀行窓口において検定料を納入してください。 ^(注) なお、下記（注）の場合以外は、いかなる理由があっても既納の検定料は一切返還しません。 |
| 検 定 料 振 込 証 明 台 紙 | 上記検定料を納入後、銀行窓口において受領する「C票 検定料振込証明書」を台紙に貼り付けてください。 |
| 入学志願票（様式院1-3） 履 歴 書 写 真 票（様式院2-3） 受 験 票（様式院3-3） | ※印以外の所定の欄はすべて記入してください。 写真は上半身、脱帽、正面向きで、出願前3か月以内に撮影したものを所定の欄に貼り付けてください。 |
| 成 績 証 明 書 | 最終出身学校の成績証明書 |
| 卒 業（修了）証 明 書 等 | 最終出身学校の卒業（修了）証明書等 |
| 志 望 理 由 書 （ 様 式 院 6 ） | 本学所定の用紙を用いてください。 |
| 研 究 計 画 書 （ 様 式 院 7 - 1 ） | 本学所定の用紙を用いてください。（1,000字程度） |
| 研 究 業 績 書 （ 様 式 院 7 - 2 ） | 研究論文、技術報告書、特許、実用新案、卒業研究報告書等本人の業績又は業績内容を示すもの。本学所定の用紙を用いてください。 |
| 出 願 承 認 書 （ 様 式 院 5 ） | 本学所定の用紙を用いてください。 |
| 返 信 用 封 筒 | 受験票を送付しますので、長形3号の封筒の表面に受取人の住所、氏名、郵便番号を明記し、「受験票在中」と朱書きの上、82円分切手を貼り付けてください。 |
| 住 所 届 （ 様 式 院 1 0 ） | 本学所定の住所届に必要事項を記入してください。 |
| 「住民票」、「在留カード」または「外国人登録証明書」の写し | ○日本国籍を有しない者で、現に日本国内に在住しているときは、市区町村長の発行する「住民票の写し」（在留資格が記載されたもの）を提出してください。（在留カードの表裏両面をコピーしたものでも可） ○出願時に日本国内に在住していない者は、パスポートの写し（写真及び在留資格・期間の分かるページ）を提出してください。 |

（注）検定料の返還請求

次の場合は、検定料の返還請求ができますので、必ず手続きをしてください。

- ① 検定料を振り込んだが、本学に出願書類を提出しなかった場合
- ② 検定料を振り込み、本学に出願書類を提出したが、受理されなかった場合
- ③ 検定料を誤って二重に振り込んだ場合

なお、返還請求の方法等については、学務部入試課（0952-28-8178）までお問合せください。

熊本地震で被災された佐賀大学志願者への入学検定料の免除について

1. 免除申請の要件

入学検定料の免除を申請できるのは、次に該当する者です。

- ① 主たる家計支持者が所有する自宅家屋が全壊，大規模半壊，半壊，流失した場合
- ② 主たる家計支持者が死亡又は行方不明の場合

2. 申請方法

事前に学務部入試課に連絡し、該当すると判断された者は、所定の申請書類を出願書類とともに提出してください。

3. 申請書類

(ア) 「入学検定料免除申請書」

本学ホームページ「入試案内，大学院，募集要項」からダウンロードできます。

なお、ご請求頂ければ、郵送により送付します。

(イ) 「り災証明書（写し可）」（上記1.①に該当する者）

(ウ) 「死亡又は行方不明を証明する書類」（上記1.②に該当する者）

6 入試方法

入学者の選抜は、口述試験・面接及び提出書類を総合して判定します。

7 試験日時等

(1) 集合時間・集合場所(受験票を必ず持参してください。)

●平成30年2月26日(月)

(集合時間・集合場所は、受験票送付の際に併せて通知します。)

(2) 学力試験等日程

●平成30年2月26日(月)

| 専攻 | コース | 講座 | 口述試験・面接 |
|--------|---------|---------|---------|
| 生物資源科学 | 応用生物学 | 生物資源開発学 | 13:00~ |
| | | 生物資源制御学 | |
| | 生物環境保全学 | 生物環境保全学 | |
| | 資源循環生産学 | 資源循環生産学 | |
| | 地域社会開発学 | 地域社会開発学 | |
| | 生命機能科学 | 生命化学 | |
| 食糧科学 | | | |

※コース別に行います。

8 合格者発表

平成30年3月8日(木)

本学ホームページに10時頃から合格者の受験番号を発表するほか、合格者には本学所定の合格通知書をもって通知します。

なお、電話による可否に関する問い合わせには一切応じかねますのでご了承ください。

9 大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例による教育の実施について

本学大学院農学研究科では、平成12年度から大学院での履修を希望する社会人技術者等に対し、同条に定める教育方法の特例による教育を実施しています。

この概要は、次のとおりです。

- (1) 特例を適用する場合、課程修了に必要な30単位のうち16単位以上は通常の授業時間帯における履修によって修得しなければなりません。
- (2) 特例の授業時間帯は、夜間の1時限(18時00分~19時30分)とし、当該授業の履修によって修得した単位のうち14単位までを課程修了に必要な単位数に含めることができます。
- (3) 学生には、授業科目、単位数、開講年次、授業科目概要の内容に基づき、指導教員の指導のもとに各自の在学期間を見通した履修計画を立てさせます。

IV 外国人留学生特別入試

1 募集人員

| 専攻 | コース | 講座 | 教育研究分野 | 募集人員 |
|--------|---------|--------------------------------------|--|---------------|
| | | | | 平成 30 年 4 月入学 |
| 生物資源科学 | 応用生物科学 | 生物資源開発学 | 熱帯作物改良学, 動物資源開発学, 植物代謝解析学, 蔬菜花卉園芸学, 果樹園芸学, 植物遺伝育種学 | 若干人 |
| | | 生物資源制御学 | 植物病制御学, 植物ウイルス病制御学, 線虫学, 昆虫学, システム生態学, 動物行動生態学 | |
| | 生物環境保全学 | 生物環境保全学 | 地圏環境学, 水環境工学, 浅海干潟環境学, 環境地盤学, 海浜環境情報学, 生物環境学 | |
| | 資源循環生産学 | 資源循環生産学 | 農業生産機械学, 生産システム情報学, 施設農業生産学, 作物生態生理学, 家畜医療応用学, アグロフィールド保全学, フィールド資源開発学 | |
| | 地域社会開発学 | 地域社会開発学 | 地域ビジネス開発学, 地域資源学, 人類生態学 | |
| | 生命機能科学 | 生命化学 | 生化学, 機能高分子化学, 応用微生物学, ☆分子細胞生物学 | |
| 食糧科学 | | 生物資源利用学, 食品化学, 食糧安全学, 食品栄養化学, 天然資源化学 | | |

上記 5 コースの他, 副コースとして入学後に履修することができる「農業技術経営管理学コース」があります。詳細は 30 ページを参照ください。

☆は総合分析実験センターにおいて研究指導を行います。

2 出願資格

日本国籍を有しない者で, 次のいずれかに該当する者とします。

- (1) 外国において学校教育における 12 年の課程を修了した後, 日本の大学に入学し, 卒業した者及び平成 30 年 3 月までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者及び平成 30 年 3 月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において, 学校教育における 16 年の課程を修了した者及び平成 30 年 3 月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより, 当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者及び平成 30 年 3 月までに修了見込みの者
- (5) 我が国において, 外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修

了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成30年3月までに修了見込みの者

- (6) 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者
 - (7) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成30年3月までに修了見込みの者
 - (8) 文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)
 - (9) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学院に入学した者であって、当該者をその後に入学者とする大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者[下記の(注2)を参照してください。]
 - (10) 学校教育法第83条に定める大学に3年以上在学した者であって、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認めた者[下記の(注2)を参照してください。]
 - (11) 外国において学校教育における15年の課程を修了し、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了し、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認めた者[下記の(注2)を参照してください。]
 - (12) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認めた者[下記の(注2)を参照してください。]
 - (13) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成30年3月31日において満22歳に達したもの(学校教育法施行規則第155条第1項第8号)[下記の(注1)及び(注2)を参照してください。]
- (注1) 出願資格(13)における個別の入学資格審査とは、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業者やその他の教育施設の修了者等で大学卒業資格を有していない者について、大学を卒業した者と同等以上の学力があるか審査を行うものです。
- (注2) 出願資格(9)、(10)、(11)、(12)及び(13)による出願希望者は、下記事項に留意の上、出願してください。(ただし、③については出願資格(10)、(11)及び(12)による出願希望者のみ)
- ① 出願資格に関する事前審査を行いますので、出願を希望する者は、平成29年12月4日(月)までに学務部入試課へ「出願資格認定申請書(様式院9-1)」に「入学試験出願資格認定審査調書(様式院9-2)」及び出願資格認定申請書に記載している提出書類を添付して申し出てください。
なお、出願希望者の経歴によっては、その他の書類等を求めることがあります。

- ② 出願資格を有すると認定された者に対し，入学願書の受け付けを行います。
- ③ 出願資格（１０），（１１）及び（１２）による者で，入学試験に合格した者に対しては，平成３０年３月までに提出された成績証明書等により，入学資格要件(事前に本人に通知します。)を審査します。審査の結果，入学資格要件を満たしていないと認定された者は，入学できません。

3 出願期間

(1) 出願期間

平成30年1月15日(月)～1月18日(木)

- ① 郵送の場合は、「簡易書留」とし、平成30年1月18日(木)17時必着とします。
- ② 持参の場合は土曜日、日曜日及び祝日を除き毎日9時から17時までとします。
- ③ 入試課ホームページの「出願用封筒」に必要事項を記入し、角形2号の封筒に貼付し提出してください。

封筒については、学務部入試課においても配布を行っています。

(2) 提出先：〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部入試課

(3) 受験票等の送付

受験票は、試験日の1週間前までに届くように、郵送します。

期日までに受験票が届かない場合は、土曜日、日曜日及び祝日を除き毎日9時から17時までの間に学務部入試課まで、お問い合わせください。

4 出願書類等（外国人留学生特別入試）

下記の出願書類を入試課ホームページ(http://www.sao.saga-u.ac.jp/daigakuin/daigakuin_yoko.html)より、ダウンロードして提出してください。

| 区 分 | 備 考 |
|---|---|
| 入 学 検 定 料 30,000円 | 本学所定の検定料振込依頼書を使用し、銀行窓口において検定料を納入してください。(注1) なお、下記(注1)の場合以外は、いかなる理由があっても既納の検定料は一切返還しません。 |
| 検 定 料 振 込 証 明 台 紙 | 上記検定料を納入後、銀行窓口において受領する「C票 検定料振込証明書」を台紙に貼り付けてください。 |
| 入学志願票（様式院1-4） 写 真 票（様式院2-4） 受 験 票（様式院3-4） | ※印以外の所定の欄はすべて記入してください。 写真は上半身、脱帽、正面向きで、出願前3か月以内に撮影したものを所定の欄に貼り付けてください。 |
| 成 績 証 明 書 | 最終出身学校の成績証明書 |
| 卒業（修了）証明書又は卒業（修了）見込証明書等(注2) | 出身大学等作成のもの(注3) |
| 志 望 理 由 書 （ 様 式 院 6 ） | 志望した動機、理由等を日本語で約1,000字又は英語で約500語程度にまとめたもの。本学所定の用紙を用いてください。 |
| 履 歴 書 （ 様 式 院 8 ） | 本学所定の用紙を用いてください。 |
| 返 信 用 封 筒 | 受験票を送付しますので、長形3号の封筒の表面に受取人の住所、氏名、郵便番号を明記し、「受験票在中」と朱書きの上、82円分切手を貼り付けてください。 |
| 住 所 届 （ 様 式 院 10 ） | 本学所定の住所届に必要事項を記入してください。 |
| 「住民票」、「在留カード」または「外国人登録証明書」の写し | ○日本国籍を有しない者で、現に日本国内に在住しているときは、市区町村長の発行する「住民票の写し」（在留資格が記載されたもの）を提出してください。（在留カードの表裏両面をコピーしたものでも可） ○出願時に日本国内に在住していない者は、パスポートの写し（写真及び在留資格・期間の分かるページ）を提出してください。 |

（注1）検定料の返還請求

次の場合は、検定料の返還請求ができますので、必ず手続きをしてください。

- ① 検定料を振り込んだが、本学に出願書類を提出しなかった場合
- ② 検定料を振り込み、本学に出願書類を提出したが、受理されなかった場合
- ③ 検定料を誤って二重に振り込んだ場合

なお、返還請求の方法等については、学務部入試課（0952-28-8178）までお問合せください。

（注2）合格者について、卒業見込みの者（本学出身者を除きます。）は「卒業証明書」を、出願資格（2）にかかる学位取得見込み者は、「学位記」の写し又は「学位授与証明書」を卒業後速やかに提出してください。

（注3）出願資格（2）にかかる者のうち、短期大学の専攻科又は高等専門学校の専攻科等を卒業（修了）見込みの者については、学士の学位の授与申請予定証明書を添付してください。

熊本地震で被災された佐賀大学志願者への入学検定料の免除について

1. 免除申請の要件

入学検定料の免除を申請できるのは、次に該当する者です。

- ① 主たる家計支持者が所有する自宅家屋が全壊、大規模半壊、半壊、流失した場合
- ② 主たる家計支持者が死亡又は行方不明の場合

2. 申請方法

事前に学務部入試課に連絡し、該当すると判断された者は、所定の申請書類を出願書類とともに提出してください。

3. 申請書類

(ア) 「入学検定料免除申請書」

本学ホームページ「入試案内、大学院、募集要項」からダウンロードできます。

なお、ご請求頂ければ、郵送により送付します。

(イ) 「り災証明書（写し可）」（上記1.①に該当する者）

(ウ) 「死亡又は行方不明を証明する書類」（上記1.②に該当する者）

5 入試方法

入学者の選抜は、修学に必要な学力、能力及び専攻する専門分野の内容等について口述試験及び面接を行い、提出書類を総合して判定します。

6 試験日時等

(1) 集合時間・集合場所(受験票を必ず持参してください。)

●平成30年2月26日(月)(集合時間・集合場所は、受験票送付の際に併せて通知します。)

(2) 学力試験等日程

●平成30年2月26日(月)

| 専攻 | コース | 講座 | 口述試験・面接 |
|--------|---------|---------|---------|
| 生物資源科学 | 応用生物学 | 生物資源開発学 | 13:00~ |
| | | 生物資源制御学 | |
| | 生物環境保全学 | 生物環境保全学 | |
| | 資源循環生産学 | 資源循環生産学 | |
| | 地域社会開発学 | 地域社会開発学 | |
| | 生命機能科学 | 生命化学 | |
| 食糧科学 | | | |

※コース別に行います。

7 合格者発表

平成30年3月8日(木)

本学ホームページに10時頃から合格者の受験番号を発表するほか、合格者には本学所定の合格通知書をもって通知します。

なお、電話による可否に関する問い合わせには一切応じかねますのでご了承ください。

V 入学手続等

i 入学手続

入学手続については、合格通知書を送付する際にお知らせします。

ii 納入金

入学料：282,000円(入学手続時に納入してください。)

授業料：267,900円(前期・後期) [年額535,800円]

※この金額は、平成29年4月現在のものです。

(留意事項)

(1) 入学時又は在学中に納入金の改定が行われた場合には、改定後の入学料及び授業料を納入していただくことになります。

なお、合格通知書送付の際、納入方法等改めてお知らせします。

(2) 授業料は、入学手続時に納入する必要はありません。納入期間は、下記の通りです。
(入学後に付与される学籍番号が必要となります。)

【平成30年 4月入学】 平成30年 4月4日(水)～ 5月31日(木)

(3) 納入した入学料は、いかなる理由があっても返還しません。

(4) 入学料の免除及び徴収猶予ならびに授業料の免除については、合格者に送付する関係書類を熟読の上、学生生活課に申し出てください。

なお、入学料免除及び徴収猶予の申請をした者で、入学を辞退する場合は入学料の全額を納付してください。

iii 奨学金

(1) 学業優秀で、経済的な理由により修学が困難な学生の皆さんのために奨学金制度が準備されています。

① 日本学生支援機構奨学金

・ 第一種奨学生(無利子)

貸与月額 50,000円又は88,000円

・ 第二種奨学生(有利子)

貸与月額 50,000円, 80,000円, 100,000円, 130,000円, 150,000円から選択

② その他の奨学金

この他に地方公共団体及び民間育英団体等の奨学金制度があります。詳しくは、次の問い合わせ先にお尋ねください。

(2) 奨学金に関する問い合わせ先

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部学生生活課 奨学金担当

TEL 0952-28-8172

iv 教育職員免許状

取得できる専修免許状は、別表(32ページ)「取得できる教育職員免許状」のとおりです。ただし、専修免許状の所要資格を得ようとする場合は、取得しようとする専修免許状(中学校教諭及び高等学校教諭の専修免許状については、その免許教科)の一種免許状を有することが必要です。

v 出願上の留意事項

(1) 入学志願票の記入事項及び書類等の不備のものは受け付けません。

(2) 視力障害、聴力障害、運動機能障害(肢体不自由)、その他の障がいを持つ者は、実験実習を伴うコースでは修学上支障をきたすこともありますので、あらかじめ出願前に協議を行い、これらの点に考慮して志望してください。協議は、出願意思が決定次第、可能な限り早めに行い、遅くとも出願期間の開始前までに協議してください。

(3) 出願書類受理後は、いかなる理由があっても記入事項及び書類の変更は認めません。

また、既納の入学検定料は一切返還しません。

(4) 出願に関する問い合わせ先

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部入試課

TEL 0952-28-8178

入学志願票等の記入上の注意及び記入例

- (1) 志願票等の記入に当たっては、募集要項を熟読の上、必ず志願者本人が記入してください。
- (2) ※印欄は、記入しないでください。
- (3) 志願票・受験票・写真票の希望する入学年月を記入してください。

(記入例)

「志望研究科，専攻，コース・専修，講座，分野」の欄

| | | | |
|---------------------------|----------------|---|---|
| 志望研究科，専攻， コース・専修，講座，分野 | コード (第4表参照) | | |
| 農学 研究科 | 2 | 4 | |
| 生物資源科学 専攻 | Q | C | A |
| 応用生物科学 コース・専修 | | | |
| 生物資源開発学 講座 | | | |
| 熱帯作物改良学 分野 | | | |

- コース・専修，講座及び分野まで記入してください。
- コードは(第4表)を参照し，1コマずつ，正確に記入してください。
- 常用漢字で記入してください。(JIS漢字コードの第1・第2水準以外を含む場合，その文字が置き換えられることがあります)

【置き換えられる文字の例】

高 → 高 崎 → 崎 桑 → 桑
土 → 土 吉 → 吉 原 → 原

「氏名」の欄

| | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|---|---|---|---|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 漢字(アルファベット)氏名 | 佐 | 賀 | 太 | 郎 | | | | | | | | | |
| フリガナ(カタカナ) | サ | ガ | タ | ロ | ウ | | | | | | | | |

「性別」及び「生年月日」の欄

| 性別 | | 生年月日 | | | | | | | |
|----|---|------|---|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 女 | 西暦 年 | | | 月 | 日 | | | |
| ✓ | | 1 | 9 | 9 | 2 | 0 | 9 | 1 | 7 |

- 性別は，該当する箇所に✓を入れてください。
- 生年月日で，月及び日が1ケタの場合は右づめとし，1コマ目は「0」を記入してください。

「出身県等」，「留学生」及び「出身学校等」の欄

| 出身県等 | | 留学生 | | | 選抜種別 | 出身学校等 | | | | | | | |
|-------|---|-----|---------------|--|------|-------|---|-------|---|---|---|--|--|
| 第1表参照 | 4 | 1 | 国・地域 第2表参照 | | 1 | 第3表参照 | | 卒業年月等 | | | | | |
| | | | | | | 3 | 4 | 西暦 年 | | 月 | | | |
| | | | | | | 2 | 0 | 1 | 8 | 0 | 3 | | |

- 出身県等は，(第1表)により，コード番号を1コマ1ケタずつ，正確に記入してください。
- 留学生は，(第2表)により，コード番号を1コマ1ケタずつ，正確に記入してください。
- 出身学校等は(第3表)により，コード番号を1コマ1ケタずつ，正確に記入し，卒業等年月(見込を含みます。)を西暦で記入してください。

「現住所及び連絡先等」の欄

- 本学から出願書類等について連絡する場合もあるので、正確に記入してください。
 なお、出願後、この欄に変更があった場合は電話連絡するとともにハガキ等でもお知らせください。
 (連絡先) 〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部入試課
 電話0952-28-8178

「住所届」

- 合格通知書は、これに記載された現住所に送付するので、正確に記入してください。
 なお、出願後、住所に変更があった場合は電話連絡するとともにハガキ等でもお知らせください。

(第1表) 都道府県等コード

| | | | | | | | | | |
|-----|----|------|----|------|----|-----|----|------|----|
| 北海道 | 01 | 埼玉県 | 11 | 岐阜県 | 21 | 鳥取県 | 31 | 佐賀県 | 41 |
| 青森県 | 02 | 千葉県 | 12 | 静岡県 | 22 | 島根県 | 32 | 長崎県 | 42 |
| 岩手県 | 03 | 東京都 | 13 | 愛知県 | 23 | 岡山県 | 33 | 熊本県 | 43 |
| 宮城県 | 04 | 神奈川県 | 14 | 三重県 | 24 | 広島県 | 34 | 大分県 | 44 |
| 秋田県 | 05 | 新潟県 | 15 | 滋賀県 | 25 | 山口県 | 35 | 宮崎県 | 45 |
| 山形県 | 06 | 富山県 | 16 | 京都府 | 26 | 徳島県 | 36 | 鹿児島県 | 46 |
| 福島県 | 07 | 石川県 | 17 | 大阪府 | 27 | 香川県 | 37 | 沖縄県 | 47 |
| 茨城県 | 08 | 福井県 | 18 | 兵庫県 | 28 | 愛媛県 | 38 | | |
| 栃木県 | 09 | 山梨県 | 19 | 奈良県 | 29 | 高知県 | 39 | | |
| 群馬県 | 10 | 長野県 | 20 | 和歌山県 | 30 | 福岡県 | 40 | 外国 | 99 |

(第2表) 国・地域コード

| | | | | | | | | | |
|---------|-----|-------------|-----|------------|-----|----------|-----|---------|-----|
| パキスタン | 101 | 大韓民国 | 113 | イラン | 201 | ウガンダ | 312 | オランダ | 710 |
| インド | 102 | モンゴル | 114 | トルコ | 202 | エチオピア | 320 | ドイツ | 711 |
| ネパール | 103 | ベトナム | 115 | シリア・アラブ共和国 | 204 | オーストラリア | 401 | フランス | 712 |
| バングラデシュ | 104 | 中華人民共和国 | 116 | バーレーン | 215 | ニュージーランド | 402 | スペイン | 713 |
| スリランカ | 105 | カンボジア | 117 | エジプト | 301 | カナダ | 501 | イタリア | 715 |
| ミャンマー | 106 | ブータン | 118 | スーダン | 302 | アメリカ合衆国 | 502 | ポーランド | 721 |
| タイ | 107 | ラオス | 119 | リビア | 303 | ドミニカ | 607 | チェコ | 722 |
| マレーシア | 108 | ブルネイ | 120 | ケニア | 307 | ブラジル | 608 | ハンガリー | 723 |
| シンガポール | 109 | マカオ | 121 | タンザニア | 308 | ホンジュラス | 618 | ブルガリア | 726 |
| インドネシア | 110 | 台湾 | 122 | コンゴ | 309 | パナマ | 619 | スロバキア | 732 |
| フィリピン | 111 | 朝鮮民主主義人民共和国 | | ナイジェリア | 310 | イギリス | 707 | ウズベキスタン | 734 |
| 香港 | 112 | | 191 | ガーナ | 311 | ルクセンブルク | 709 | | |

(第3表) 出身学校等

| | | | | | |
|---------------------|-----|--------|-----|-----------|-----|
| 佐賀大学（文化教育学部，教育学研究科） | 3 1 | 大学（国内） | 2 2 | 高等専門学校専攻科 | 2 4 |
| 佐賀大学（経済学部，経済学研究科） | 3 2 | 大学（国外） | 2 3 | 短期大学専攻科 | 2 5 |
| 佐賀大学（理工学部，工学系研究科） | 3 3 | | | 個別審査 | 2 6 |
| 佐賀大学（農学部，農学研究科） | 3 4 | | | 専修学校 | 2 7 |
| 佐賀大学（医学部，医学系研究科） | 3 5 | | | その他 | 2 9 |

(第4表) 研究科，専攻，コース・専修コード

| 研究科コード | | 専攻，コース・専修コード | | |
|--------|-----|--------------|------------|-------|
| 農学研究科 | 2 4 | 生物資源科学専攻 | 応用生物科学コース | Q C A |
| | | | 生物環境保全学コース | Q C B |
| | | | 資源循環生産学コース | Q C C |
| | | | 地域社会開発学コース | Q C D |
| | | | 生命機能科学コース | Q C E |

VI 教育研究分野等

〈コースの内容〉

| 専攻 | コース | コースの内容 |
|----------|------------|--|
| 生物資源科学専攻 | 応用生物学コース | 広範な生物資源の探索と機能解析，有用生物の育種開発，生態系における生物制御機構の解析，バイオテクノロジーによる新素材の開発等，バイオサイエンスに関する総合的かつ実践的な教育研究を行う。本コースにおける生物機能解析の対象は，遺伝子・細胞・代謝レベルから，生態系における個体レベルまで幅広く，生命・食糧・健康・環境等さまざまな分野の学術と産業発展を先導する先端的な内容である。 |
| | 生物環境保全学コース | 環境関連分野に関する高度な専門知識を持ち，環境保全及び持続的食料生産の為の技術開発及び資源循環型地域社会の構築を行う能力を持つ高度専門職業人等を養成することを目的とする。本コースにおいては，地球レベルから地域レベルに至るまでの様々なスケールで生じている環境問題に対処するため，環境に負荷の少ない生物生産環境の創出・保全と豊かな生活環境の創造に関する教育研究を行う。 |
| | 資源循環生産学コース | 最新の生物学並びに生産情報科学の理論と技術を用いて，環境に配慮した持続的な生物生産環境と高度な生産管理システムを創造し，地域の農業生産性を高める実践研究を行うと同時に，世界的な食料、環境及び資源循環の問題解決に寄与する教育研究を行う。具体的には微生物や作物の遺伝子・細胞レベルから圃場における群落，それらを管理するための機械や装置，施設までを研究解析対象としている。 |
| | 地域社会開発学コース | 日本を含むアジア・太平洋諸地域における①農林水産資源の循環的利用システムと農林水産業関連ビジネスの開発，②地域資源の持続可能な開発と利用システム，③諸民族・地域社会における人間と環境との諸関係、及び④環黄海・対馬海峡沿岸の半島・島嶼地域に関するフィールドワーク（実態調査）に基づき，持続可能な循環型地域社会及びその構築方策について実証的に教育研究を行うものである。 |
| | 生命機能科学コース | 生命化学講座では，微生物から高等動植物にわたる多様な生物を対象として，その生命現象と遺伝機能を化学的に解明するための基礎的な教育と研究を行うとともに，生物の特異的な機能を有効に利用して有用物質を生産する方法の開発と，バイオテクノロジーの手法を用いた生物機能の改良を行う。 食糧科学講座では，生物資源の持つ機能を食品生化学的・栄養生理学的に究明して，機能的食品及び医薬品への応用を目指すとともに，新しい食品加工・貯蔵技術及び食品素材の開発や食品の安全性に関する教育研究を行う。 |

| | |
|--------------------------|--|
| <p>農業技術経営 管理学コース</p> | <p>本コースは、高度な農業技術と経営管理能力を有する人材の育成を目的とする実践的な教育カリキュラム（農業版MOT教育）からなり、農業法人や法人化を志向する集落営農組織等における中核的経営者、農政や農業団体における営農指導者、農業関連分野に新規に参入する企業等における指導的立場で働く企業人及びアジアの諸地域におけるアグリビジネス産業の発展に寄与できる人材等の育成を目指すプログラムです。</p> <p>この教育プログラムでは、講義科目 11 単位とケース分析特別演習 1 単位及び修了研究 3 単位の合計 15 単位以上の修得によって、農学修士に加えて「佐賀大学農業技術経営管理学コース」の修了証及び農業技術経営管理士の称号が授与されます。</p> <p>学習や修了研究に際しては、主コースの指導教員に加えて、副コースの指導教員や実務経験を有する特任教員等による支援を行います。</p> |
|--------------------------|--|

生物資源科学専攻

〈教育研究分野の内容〉

| コース | 教育研究分野 | 分野の内容 |
|-----------|------------|--|
| 応用生物科学コース | 熱帯作物改良学 | 熱帯及び亜熱帯作物の生産力向上のための栽培条件及び品種能力の改良について教育・研究を行う。 |
| | 動物資源開発学 | 家畜家禽を中心とした脊椎動物の遺伝育種学やゲノム解析学, 分子生物学や繁殖生理学についての教育・研究を行う。 |
| | 植物代謝解析学 | 先端分析機器を利用した植物二次代謝成分の化学構造及び機能解析を中心に, 植物メタボロミクス解析による有用代謝物の探索とバイオテクノロジーを用いた効率的生産, また高機能化のための新規加工法の開発に関する教育・研究を行う。 |
| | 蔬菜花卉園芸学 | 高等植物の生殖生理を基礎とした種苗の生産技術の開発について教育・研究を行う。 |
| | 果樹園芸学 | ミカン亜科植物におけるゲノムレベルの分類体系構築, 常緑・落葉果樹双方における花芽形成機構, 果実生理機能について教育・研究を行う。 |
| | 植物遺伝育種学 | 高等植物の遺伝理論及び突然変異遺伝子組換え技術等を利用した優良品種の開発について教育・研究を行う。 |
| | 植物病制御学 | 植物と病原菌の遺伝的相互作用・発病機構の解明と発病制御並びに植物病原糸状菌の生態・進化の解明について教育・研究を行う。 |
| | 植物ウイルス病制御学 | 植物病原ウイルスの分子進化・分子生態と宿主植物との相互作用の解明について教育・研究を行う。 |
| | 線虫学 | 昆虫病原性線虫及び菌食性線虫の生理生態並びに利用と, 植物寄生性線虫の制御について教育・研究を行う。 |
| | 昆虫学 | 昆虫の様々な生理特性(寄生・休眠・免疫・ストレス応答など)の分子生物学的解析とその応用技術について教育・研究を行う。 |
| | システム生態学 | 昆虫を主とする生物の生態学的諸特性の解明及び群集のシステム解析について教育・研究を行う。 |
| | 動物行動生態学 | 動物の行動, 生物間相互作用及び動態の進化生態学的解析について教育・研究を行う。 |

| コース | 教育研究分野 | 分野の内容 |
|------------|-------------------|---|
| 生物環境保全学コース | 地 圏 環 境 学 | 最適な土環境維持のための土中の水分・溶質移動の予測手法の確立，電磁波などを利用した電磁物理探査法の原理及びその応用（例えば地下水の調査）について教育・研究を行う。 |
| | 水 環 境 工 学 | 水資源と水環境の問題を利水の面からとらえ、水を有効に利用するための計画、管理及び制御と水環境の保全について教育・研究する。 |
| | 浅 海 干 潟 環 境 学 | 流域圏から浅海干潟域における水環境と生物環境の保全について教育・研究を行う。 |
| | 環 境 地 盤 学 | 生物生産の場及び農業関連構造物の基礎としての地盤の有効利用，地盤を構成する土の物理化学的性質や粘土鉱物学的性質などに関する教育と研究を行う。 |
| | 海 浜 環 境 情 報 学 | 海浜台地の環境保全技術ならびに地域資源の農業への活用技術について教育・研究を行う。 |
| | 生 物 環 境 学 | 地域あるいは地球規模での生物環境の保全や浄化・修復及び自然物や生物などの環境資源の性質とその有効利用に関する教育研究を通して，安全で安心な国民生活の基盤となる学問的基礎の形成に貢献する。 |
| 資源循環生産学コース | 農 業 生 産 機 械 学 | 生物生産力の増大や労力の軽減に果たす農業生産機械の役割は大きく，その開発及び改良は重要である。この分野では，機械工学・先端技術・IT（情報技術）の利用を通じて，農業生産・農産物加工に必要な機械の高性能化とエネルギー利用効率の向上，農業における労働負担の軽減を目標とした教育と研究を行う。 |
| | 生 産 シ ス テ ム 情 報 学 | 本分野では生産・流通・加工・消費の過程内及びそれらの間を効率的かつ経済的に結びいわゆる「システム化」という点から，高度な情報処理を取り入れて，生産面では農産物の生産性の向上，流通面では農産物の品質保持技術の開発，消費面では農産物の付加価値化などを目指した教育と研究を行う。また，ゲノム情報の高度な情報処理により新たなバイオエタノールや酒類の醸造酵母の研究を行うことにより効率的な資源循環システムを構築する。 |
| | 施 設 農 業 生 産 学 | 農業生産性向上のための施設化及び装置化技術の開発・利用について教育・研究を行う。 |
| | 作 物 生 態 生 理 学 | ダイズ，イネ，ムギ等の作物の形態形成及び生理機能の解明をおこなう。また，有用土壌微生物である根粒菌や菌根菌と高等植物との共生関係成立機構に関する基礎的な研究を推進するとともに，それを作物生産へ応用することを目指した教育・研究を行う。 |

| コース | 教育研究分野 | 分野の内容 |
|------------|-------------|--|
| 資源循環生産学コース | 家畜医療応用学 | 農業によるヒトの健康や福祉の向上に寄与するため、農業フィールド資源であるウシやヤギ等の家畜を障がいを持つ人のケアの手段として活用する方法に関する教育・研究を行う。 |
| | アグロフィールド保全学 | 資源循環型の食料生産に関する技術を解明し、アグロフィールドの管理と周辺環境の保全に関する教育研究を行う。 |
| 地域社会開発学コース | 地域ビジネス開発学 | 食料流通経済学と農業経営学に関わる研究と教育を行う。食料流通市場構造を分析し市場対応を検討するほか、生産財、農地、農業労働力、農業金融関連市場について実証的研究を行う。また家族農業経営、集落営農、農業法人を対象に組織、管理について実証的研究を行う。調査対象地は日本国内を中心に東・東南・南アジアである。 |
| | 地域資源学 | 地域資源の適正保全と循環的利用を生態人類学的・人文地理学的に調査研究する。地域資源（生物資源・人的資源・文化的資源）の多様性と伝統的利用形態や生計維持戦略の解明、農地・水・森林資源開発の諸問題や土地利用システムを究明し、多様な動植物相利用、伝統的技術・知恵の伝承性、風土性の現代的意味を再考察し地域資源持続的利用を検討する。 |
| | 人類生態学 | 日本の地域社会の環境保全や自然保護、途上国の環境・健康問題を生物人類学・社会学・民俗学的に調査研究する。地域社会の価値や技術、環境管理システムや環境政策のあり方、ヒトの生物学的特性等を検討することで、環境変化に対するヒト及び地域社会の対応と変化を明らかにし、地域社会の持続可能な開発を提案する。 |
| | 島嶼社会経済学 | 日本の半島と島嶼の縮図と見られる佐賀県東松浦半島（上場台地）とその周辺海域（玄界灘）を対象としたフィールドワークによって日本・アジアにおける「半島・離島（島嶼）学」の構築をめざしている。 |

| コース | 教育研究分野 | 分野の内容 |
|-----------|---------------|--|
| 生命機能科学コース | 生 化 学 | 生物の機能と機能調節機構の生化学とその有効利用について教育・研究を行う。 |
| | 機 能 高 分 子 化 学 | 生理活性ペプチドの活性発現機構の解明及び新規バイオ分析法の開発について教育・研究を行う。 |
| | 応 用 微 生 物 学 | 微生物機能の解明有効利用及び有用物質生産について教育・研究を行う。 |
| | 分 子 細 胞 生 物 学 | 細胞やタンパク質の構造と機能の解明によって生命体の情報統御機構を明らかにする。 |
| | 生 物 資 源 利 用 学 | 生物資源の有効利用及び生物生産物の生化学について教育・研究を行う。 |
| | 食 品 化 学 | 食糧成分の化学と機能性食品の開発及び食品製造への酵素の利用について教育・研究を行う。 |
| | 食 糧 安 全 学 | 食品素材の構造研究を基にして、それらの機能性、有効利用ならびに品質評価、安全性に関する教育・研究を行う。 |
| | 食 品 栄 養 化 学 | ①食品の栄養価値及び食品の栄養生理機能の解明 ②脂質・リポタンパク質の代謝調節 |
| | 天 然 資 源 化 学 | 天然資源を利用した生理活性物質や機能性素材の探索と開発について、教育・研究を行う。 |

VII 鹿児島大学大学院連合農学研究科（博士課程）について

鹿児島大学大学院連合農学研究科は、佐賀大学農学研究科、琉球大学農学研究科、鹿児島大学農学研究科及び鹿児島大学水産学研究科の3大学4研究科から編成され、これらの研究科の緊密な連携のもとに運営されている新しいスタイルの博士課程(修業年限3年)です。

各構成大学の教員組織や研究設備を連合して、博士課程の教育研究体制が確立されています。受験資格は修士課程の修了者(平成30年3月修了見込みの者を含みます。)及びこれと同等の学力を有すると認められる者です。受験者は、構成大学の教員の中から主指導教員についての希望を申し出ることができ、入学すると主指導教員が所属する大学で研究します。学生1人に主指導教員1人及び副指導教員2人がついて研究指導が行われます。

鹿児島大学大学院連合農学研究科に在籍(平成29年4月1日現在)している学生は119名で、そのうち21名(日本人学生8名及び外国人留学生13名)が佐賀大学の主指導教員のもとで研究指導を受けています。

このことに関する照会は、佐賀大学学務部教務課農学部教務担当(〒840-8502 佐賀市本庄町1番地, TEL0952-28-8717)又は鹿児島大学大学院連合農学研究科事務室(〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-24, TEL099-285-8795)に申し出て下さい。

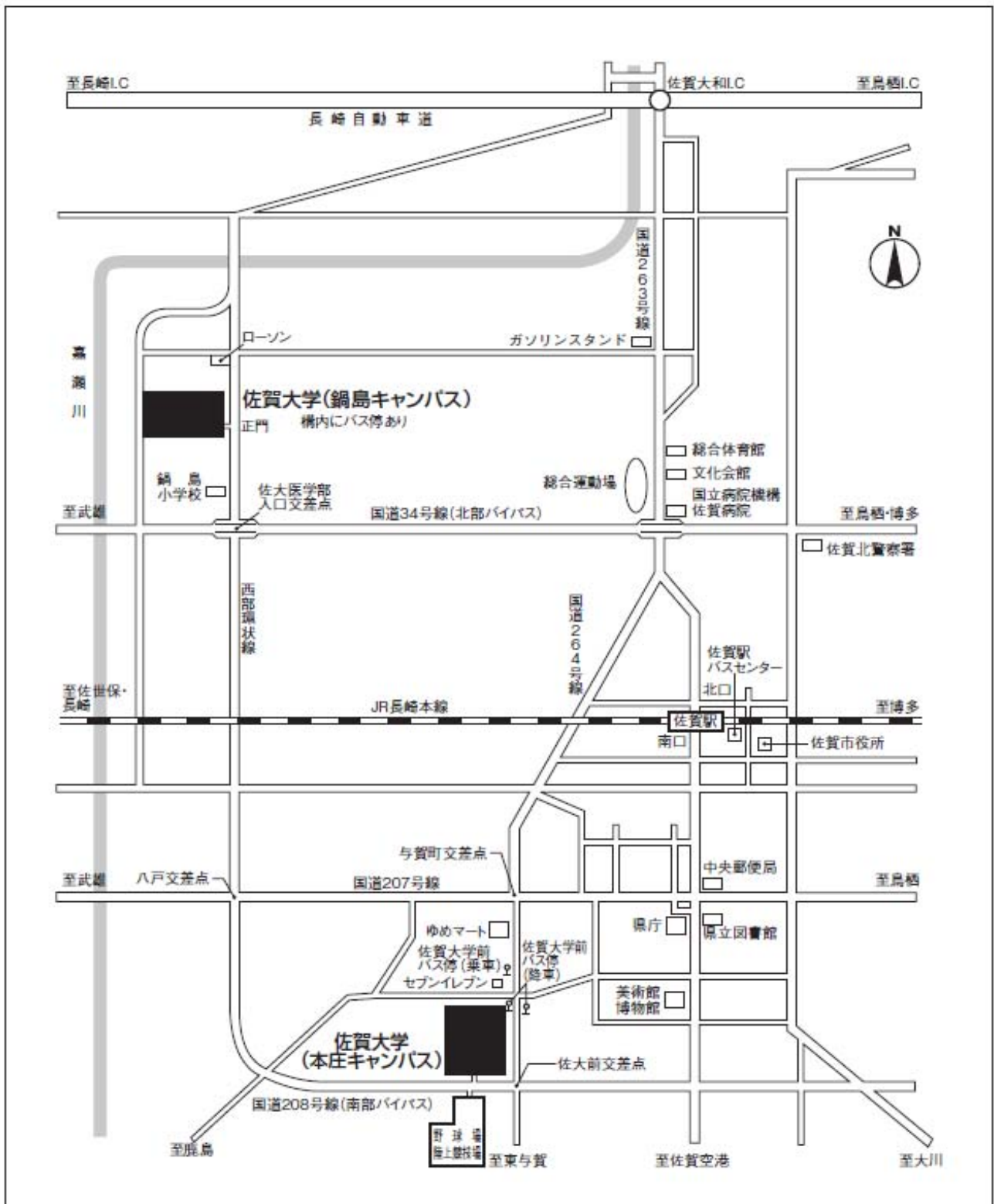
鹿児島大学大学院連合農学研究科の専攻及び連合講座

| 専攻 | 連合講座 |
|---------------|----------------|
| 生物生産科学 | 熱帯資源・植物生産科学 |
| | 動物資源生産科学 |
| | 地域・国際資源経済学 |
| 応用生命科学 | 生物機能化学 |
| | 食品機能科学 |
| | 先端応用生命科学 |
| | 連携大学院タカラバイオ(株) |
| 環境科学 農水圏資源 | 生物環境保全科学 |
| | 地域資源環境工学 |
| | 水産資源環境科学 |

取得できる教育職員免許状

| 専攻 | 取得できる専修免許状 | |
|----------|-------------|-------|
| | 種類 | 教科 |
| 生物資源科学専攻 | 中学校教諭専修免許状 | 理科 |
| | 高等学校教諭専修免許状 | 理科，農業 |

佐賀市内略図



- (1) 佐賀駅バスセンター4番のりばから市営バス〔4〕佐賀女子短大・高校線、〔11〕佐賀大学・西与賀線、〔12〕佐賀大学・東与賀線、〔4〕または〔63〕佐賀女子短大・高校線で約15分、「佐賀大学前」下車
- (2) 佐賀駅からタクシーで約10分

佐賀大学 学務部 入試課

〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1番地

TEL 0952-28-8178

ホームページ <http://www.saga-u.ac.jp/>

e - m a i l contact@mail.admin.saga-u.ac.jp